



# 育ちゆく 花実の森 ①



## 四季が楽しめる里山に

「花実（はなみ）の森」活動1年目の22年度は準備に明け暮れた年であったが、2年目となる平成23年度は実動開始の年となった。

前半は安全講習会や勉強会・企画会議を重ね、後半には企画会議の方針に沿って実動作業に入った。特別活動日を除き、当面は月1回の活動日を毎回20名前後のメンバーの参加を得て進めている。伐採木と保存木の仕分け・伐採木の伐倒・切り出し、絨毯のように茂った笹など下草の刈り取りをはじめ、しあわせの村からの要請を受け「しいたけ栽培用ほだ木200本」の提供なども完了した。踏み込むのもままならなかった所にも作業道が出来始め、少しずつ整備のあとが見えてきた。そのあたりこの春には、コナラの芽吹きが陽光に映え、山肌に届いた日差しが長い年月眠っていた野草の目覚めを誘ってくれるこ

とだろう。ササユリやオケラ、キンランやジュンラン、秋のいろいろな木の実など四季を通じて楽しませてくれる里山に戻ってくれることを確信しながらこれからも活動を続けていこう。

このあと平成24年度は、小学生の授業“自然環境体験学習の場”としての整備も始まる。訪れた子どもたちが自然をからだで感じ、“気づく”感性と“わかちあいのころ”を育てて欲しいと願っている。

（花実の森整備プロジェクト 菅田 忠志）



## 環境未来館で3校が体験学習

環境未来館（西区）はビオトープ“未来の泉”を活用した自然体験学習を、23年度から小学3年生を対象に始めました。11月15日に西区木津小の63人が来館。スライド「木津の里地・里山散策ツアー」で事前学習して出発。顕宗仁賢神社では神社の伝承について勉強し、「この木、なんの木」や「目を閉じて耳をすませば」の体験プログラムで自然の音を体感しました。木津川に沿って散策。草木や昆虫、水田、段々畑などを観察しました。

午後は、ビオトープで水辺の植物を観察。仕掛けてあったモンドリを引き上げ、ドジョウ・メダカ・カワバタモロコ・ヤゴに触れながら、自然や生命の大切さを学習しました。子供たちからは、「ビオトープでドジョウやメダカをさわられてうれしくてよかったです。里山さんさくで小さなドングリや、かわいい実をひろえて楽しかったです」などの感想が聞かれました。

24年3月9日には北区南五葉小の50人が来館したがあいにくの雨天。スライドを見た後、「スゴロクとカルタで学ぶ神戸の野草」のゲームをして、資源リサイクルセンターと環境未来館を見学。午

後はビオトープに仕掛けてあったモンドリを引き上げ、ドジョウ・メダカ・カワバタモロコ・ヤゴ、ニホンアマガエルの子を観察しました。「雨がふって里山にいけなかったけど、色々なことができて楽しかった」と書かれたアンケートの感想を読んでスタッフもほっとしました。

24年度もすでに3校から参加申し込みがあり、新たな環境学習の拠点として踏み出そうとしています。（環境未来館・涌井岑治）

## 野鳥ガイド 改訂版を発売

『しあわせの村 バードウォッチングガイド』の改訂版3000部を発行しました。ルリビタキやコサメビタキなど16種を追加、計60種を掲載して村で観察できる主な野鳥をカバーしています。スズメやキジバト等の「ものさし鳥」をシルエットにして、野鳥の大きさが分かりやすい工夫しており、野鳥と関わり深い昆虫や野草各11種も加えてミニ図鑑として利用できるようにしています。”わ”本部と村の宿泊館で200円で販売しています。村内散策にご利用下さい。（野鳥と自然観察会・茅中英一）